

『ヤマタノオロチの頭を探して』
～「第3分科会 景観・環境」～

河野 靖彦

1. はじめに

私たち第3分科会は、木次町に伝わるヤマタノオロチ神話について、その歴史的資源を景観・環境の視点から研究するため現地視察を行った。視察内容は、以下のとおりである。

日程 10月30日(土)、31日(日)

視察場所 島根県大原郡木次町(現 島根県雲南市木次町)

温泉神社の神岩(足名椎、手名椎神陵)

蛭子神社

長者の福竹(足名椎、手名椎が稲田姫をつれて一時的に逃れた場所)

印瀬の壺神さん【八口神社】(オロチ退治の八つの壺のうちの一つ)

釜石(オロチ退治の酒を造った釜がある場所)

御室山【布須神社】(須佐之男命と稲田姫を祭る神社)

八本杉(オロチの頭を埋めたとされる場所)

天ヶ淵(オロチが住んでいたとされる場所)

宿泊場所 出雲湯村温泉(出雲国風土記に「漆仁の湯」と紹介された薬湯)



(出雲湯村温泉 共同浴場)

2. 歴史的資源の現状

視察当日は天気予報(降水確率80%)が見事にはずれて秋晴れとなり、絶好の視察日和であった。13時に宿泊場所の出雲湯村温泉に集合した私たちは、2台の車に分かれて視察を開始した。

木次町は島根県出雲部の中央に位置し、中国山地から宍道湖へ注ぐ斐伊川中流部に開けた町である。町の南半分は急峻な山地が多く、北半分の地域は比較的起伏が

少ない。視察場所のほとんどは町の南側に属しており、いわゆる「里山」の景観を有している。

今回の視察は神話をテーマとしているので必然的に神社めぐりとなったが、これらは歴史的資産であると同時に地域社会と密接に結びついた施設である。日常的な維持管理はもちろん、祭事や遷宮といった施設運営を考えると、過疎化や高齢化等の問題と直面している地方の現状が見て取れた。その一方で、印瀬の壺神さん【八口神社】の境内は草刈等の清掃が行き届き、その景観はさすがにささを感じるほど見事であった。



(印瀬の壺神さん【八口神社】)

3. エコツーリズムの推進

出雲地方の歴史に疎い私としては、神話の謎解きは諸先輩方にお任せするとして、出雲神話のルーツともいえる歴史的資産を、次世代まで伝えていく方策として、エコツーリズムの推進を提案する。エコツーリズムとは、従来の物見遊山的な旅（マスツーリズム）と異なり、「自然環境を守り、そこに住む人々の生活向上に貢献できる『責任ある旅』」の形態である。

ここでエコツーリズムによる旅（以下エコツアーと呼ぶ）の定義について、以下に示す。

1) 旅行者の教育

旅行前の準備、旅行中の説明、旅行後のフォローアップ

2) 文化・歴史的環境保全への貢献

金銭や現物の支援、ボランティア活動

3) 専門ガイドの利用

特別に訓練された現地ガイド、地域住民と対話のある案内

4) 地元社会の利益

地元製品・サービスの利用

商品企画、手配における連携協力

5) ごみの削減と最小限のインパクト

ごみ削減のプロジェクト

エネルギーの節約

木次町におけるエコツアーは、「自然環境や歴史文化を対象として、それらを体験し学ぶとともに、地域の自然環境や歴史文化を保全する」ことを目的としたい。

4. 具体的な方策

1) 地域資源の再発見

地域の歴史文化や自然環境について、地域全体で考える。この地域の特色は何なのか、後世に残したい資産は何なのかを考え、地域全体の意思統一を図る必要がある。ヤマタノオロチ伝説以外にも美しい自然や豊かな歴史文化など、地域の人々が気がついていないすばらしい魅力がこの地域には残されている。

2) 歴史探訪ルートの再整備

今回視察してみて感じたことは、始めて訪れた人がこの歴史探訪ルートを全て見学することは不可能であろうということである。案内板の充実や、ルートマップの整備、ルート全体を紹介するビジターセンター等の整備が必要である。また、一部施設では駐車場や遊歩道等の整備も必要である。

3) エコツアープログラムの開発

地域の特色を抽出した後、この地域としてのエコツアープログラムを開発する。現在他地域で推進されているエコツアーを研究したり、旅行会社の協力を得ることも必要となる。

4) 人材の活用と育成

地域の歴史文化や自然を紹介するエコツアーガイドを育成する。また、子供達をこのプロジェクトに参加させ、地域の歴史文化や自然を守っていく意識を高揚させる。出来れば最初のエコツアーは、地域内の小中学生を対象に開催する。

5) フォローアップ

エコツアー実施後は、参加者へのアンケートの実施や関係者の意識調査を行い、実態調査を行う。その結果を、次回以降のエコツアーに反映させ、より良い方向性を導き出していく。

5. おわりに

私たちが訪れた翌日の11月1日、木次町は大原郡、飯石郡の関係5町村と合併し、雲南市となった。今は合併直後でもあり、まだ旧町村としての意識の方が強いと思う。

しかし、地域の発展のためには、旧地域の壁を取り払って協力していく必要がある。ヤマタノオロチの尾の伝説がある旧大東町や、考古学ファンに人気の高い加茂岩倉遺跡のある旧加茂町など、今までは別々であった地域の観光開発を連携によって生かせる絶好のチャンスではないかと思う。また、そうした努力をしていかなければ、地域としての発展も困難となるであろう。

いずれにしても、地域の人々が知恵を出し合い、貴重な歴史文化と豊かな自然を後世に残していくことが、現代に生きる人々の使命であり義務である。私は、今後ともこの地域の発展を見守り、また協力していこうと考えている。

以上